

令和 6 年度伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日 時 : 令和 7 年 3 月 10 日 (月) 午後 3 時～4 時

場 所 : 伏見区役所 1 階ホール

1 議 題

(1) 令和 6 年度進捗状況について

(参考) 令和 7 年度取組予定について

(2) 区基本計画について

2 議事内容

議題 (1) 令和 6 年度進捗状況について

事 務 局 < 資料 1 に基づき、令和 6 年度主要事業を説明 >

事 務 局 < 別紙 2、3 に基づき、「meetus 山科-醍醐」について説明 >

加藤委員 伏見区区民活動支援事業について、ありがたいことに 42 件もの申請があり、審査会での選考を経て 32 件採択された。

地域で地道に取り組んでおられるまちづくり活動を支援できた。

異分野とコラボしていく重要性について述べたい。福祉、子育て、防災など様々な分野がクロスした取組、具体的には「こどもおとな食堂」という試みがある。多世代が交流し、高齢者支援にもつながる。

「住民主体」であることも重要。行政がプランを立てて住民におろすのではなく、住民がプロデューサーになるまちづくりへの支援を進めていく必要がある。

補助金制度のため、区民に対して説明責任を果たしながら、まちづくり活動の底上げを図っていきたい。

岩井委員 「meetus 山科-醍醐」の取組について、外環沿道は都市計画の見直しも実施されている。既存建物がある中で難しい部分もあるが、行政主導で後世に残る住みよいまちにしたい。東部クリーンセンターの跡地活用は、議論が始まってからずいぶん経つ。地域の意見を取り入れながら、よりよい活用策を検討してほしい。

次年度開校する栄桜小中学校の近くには、古い市営住宅がある。周辺地域の活性化も進めてほしい。

横山醍醐
担当区長 「meetus 山科-醍醐」では、地域の魅力やポテンシャルを最大限に活かすことを第一に取り組んでいきたい。

見直しを受けた土地利用については、既存建物がある中難しい部分があるが、例えば醍醐支所が移転し、その跡地を利活用する等の可能性も含めて、これから検討を進めていく。

東部クリーンセンター跡地は、甲子園球場が丸々入るほどの広大な土地。京都市全体にとっ

てどのような姿が望ましいか議論を進めている。

醍醐地域は人口減少、高齢化が進んでいる。「meetus 山科-醍醐」の取組で、あらゆる世代がワクワクするようなまちづくりを進めていきたい。

藤本(明)委員 「meetus 山科-醍醐」について、民間の商業施設ではなく、公共施設を整備する将来像を持たれていることが大変すばらしい。広大な土地の利活用を検討されている中、子育て世代や子供たちの声をどのように吸い上げているのかお聞きしたい。

先日、NPO 法人京都子育てネットワークの取組で、子育て世代向けに防災の講座を実施した。その際、行政の方々が「子育て×防災」の視点を新しいものと受け止められていた。

伏見区では、防災のプロジェクトを進められている中で、どのように子育て世代を取り込まれているのかお聞きしたい。

横山醍醐
担当区長 「居心地の良い公共空間づくりの社会実験 meetusLABO!」は、子育て世代の声を取り込むため実施したもの。パセオ・ダイゴロー2階アトリウムに人工芝を敷き、子育て世代に来ていただけるような仕掛けをして、来場された親子にアンケートを行った。その他、インターネット等でも意見収集している。いただいたご意見をしっかりとプランに反映していきたい。

事 務 局 子育て世代に特化した防災の取組は行っていないものの、伏見区区民活動支援事業の中では、子どもたちのイラストを活用した防災啓発ポスターの作成等、区民が主体的に行う活動を支援させていただいた。伏見区の防災訓練には子どもたちの参加もあるが、どのようなことができるか検討したい。

北條深草
担当区長 令和7年度の伏見区の総合防災訓練は、深草支所が担当となっている。開催に当たっては、子育て世代や子どもたちの声が反映できるような企画を考えていきたい。

橋爪座長 堺市南区のまちづくりに携わっているが、防災をテーマに議論した際、小中学校で行われるようなまとまった防災訓練を大学や高校では行っていないことが話題となった。地域に居住されている方だけではなく、昼間人口や観光客が災害時どうするのかといった視点も大切だ。

議題（２）区基本計画について

事 務 局 < 資料3に基づき、区基本計画について説明 >

山田委員 区民会議のあり方を検討していくとのことだが、具体的な方向性があればお聞きしたい。

事 務 局 区民会議のあり方については、現在検討を進めているところであり、本日お示しするのは難しいが、次回の区民会議において今後の方向性をお示ししたい。

橋爪座長 区民会議は、区基本計画の進捗確認と区独自の事業へご意見をいただくことを目的として

いる。区基本計画のあり方が見直され別の形になると、区民会議の当初の設置目的がなくなることになる。次回の区民会議で今後の方向性が示されるため、それまで委員の皆様にはお待ちいただきたい。

加藤委員 先ほどの発言で、住民の主体性について申し上げた。全国的なことだが、自治会・町内会の組織力低下が深刻な問題となっている。京都市は60数パーセントの加入率まで落ちている。東京など都市部では30パーセント程度の地域もある。

「自分たちのまちを自分たちで良くしていきたい」という主体性は1990年代から徐々に低下している。すぐさま解決策は見つからないが、問題提起をさせていただき、この会議の中でも皆様と考えていきたい。

橋爪座長 今年、私が誘致以来関わってきた大阪・関西万博の年となる。開幕後は国内外から多くの方が大阪や京都、伏見を訪れることになる。万博は世界各国と交流する場であり、伏見も世界とつながる意識を持ってほしい。万博開催年だけでなく、今年から始まる取組が大切だ。これから5年後、10年後、子や孫に継承できる事業を目指したい。

万博を契機に、伏見港には船着場ができ、大阪から伏見の動力船の航行が可能となった。伏見に船会社がないのが残念だが、今後の「かわの京都」の取組に期待する。

京都には山を一周するトレイルコースがあるが南側のルートが不十分だ。川べりの遊歩道整備をすることで、一周回ることが可能となる。防災面からも、川筋を意識した整備がなされるとよいのではないかな。

昨今、伏見稲荷ではオーバーツーリズムが課題となっている。祇園や嵐山など京都の主要な観光地でも、外国人観光客の増加とそれに伴う日本人観光客や修学旅行生の減少といった問題が顕著になっている。海外の観光地の中には、一日あたりの受入可能な観光客数を条例で定め、制限を設けている所もある。京都ではそこまでの議論には至っていないが、観光の分散化の取組は始まっている。「meetus 山科-醍醐」の取組等で、地域の魅力が向上することは、観光の面からも期待したいところ。

これからまちづくりの整備が進んでいく伏見では、「まち育て」の観点が大切。公共空間と私的空間との間に「縁側」のように人と人が出会う場所をたくさん埋め込んでいくことが「まち育て」の根幹となる。公共の場をもっと住民に開放したり、その逆も考えられる。国の政策でも言われている「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を目指すことを大きな目標に、整備を進めていってほしい。